

短大 70 年の歩み

武 内 一 良

短期大学部長

明治 31 (1898) 年に帝国婦人協会が設立されると下田歌子先生は会長に就任し、本格的な女子教育の実現に向けて準備を始めます。翌 32 年、帝国婦人協会の事業として東京の麹町に私立実践女学校と女子工芸学校が創設され、初代校長に就任します。明治 36 (1903) 年になると両校は渋谷にある常磐松御用地へと移転し、明治 41 (1908) 年には実践女学校と女子工芸学校が帝国婦人協会実践女学校へと発展し、下田歌子先生は理事長に就くこととなります。



その後、大正 14 (1925) 年に実践女子専門学校が設置され、昭和 24 (1949) 年には政府によって専門学校から新制大学への切り替えが行われたため、実践女子大学へと転換しました。しかし、専門学校のうち約 50 校が教員組織や施設・設備等が不十分であったため、大学への転換が認められませんでした。同年、文部省は学校教育法の一部を改正し暫定措置として修業年限 2 年または 3 年の大学を設け、これを短期大学と称することにしました。これを受けて翌年の昭和 25 (1950) 年、実践女子学園は渋谷区常磐松町に家政科を有する実践女子学園短期大学を設立しました。学祖下田歌子先生の遺志を受け継ぐ 2 年課程の女子教育が産声を上げた瞬間です。この年設置された短期大学は、全国で公立 17 校、私立 132 校の計 149 校に上りました。この数字を皮切りに、平成 8 (1996) 年に短期大学数は 598 校とピークを迎えますが、それ以降減少傾向にあり令和元年には 326 校に減っています。

昭和 26 (1951) 年	家政科に生活専攻と被服専攻を置く。
昭和 27 (1952) 年	国文科と英文科を増設し、3 学科体制となる。この年に家政科より第 1 回卒業生 61 名を輩出する。
昭和 43 (1968) 年	名称を「実践女子短期大学」に変更する。
昭和 51 (1976) 年	キャンパスを日野市神明に移転する。
昭和 63 (1988) 年	3 学科をそれぞれ国文学科、英文学科、生活文化学科（生活文化専攻、食物栄養専攻）に改称する。
平成 12 (2000) 年	国文学科を日本語コミュニケーション学科に、英文学科を英語コ

	コミュニケーション学科（観光・文化コース、ビジネス・セクレタリーコース）に、生活文化学科の生活文化専攻を生活福祉学科に、食物栄養専攻を食物栄養学科に改称する。
平成 17（2005）年	栄養教諭課程を設置する。
平成 22（2010）年	英語コミュニケーション学科の観光・文化コースを観光ビジネスコースに、ビジネス・セクレタリーコースを国際コミュニケーションコースに改称する。
平成 23（2011）年	生活福祉学科の学生募集を停止する。
平成 25（2013）年	食物栄養学科の学生募集を停止する。
平成 24（2012）年	2 学科の合計定員を 220 名から 180 名に変更する。
平成 26（2014）年	実践女子大学短期大学部に改称し、渋谷キャンパスに移転する。
令和 2（2020）年	日本語コミュニケーション学科にコミュニケーションスキルコースと情報コミュニケーションコースを設置する。